

2013 年度事業報告書・2014 年度事業計画書



認定NPO法人

多文化共生センター東京

Multicultural Center TOKYO

2013 年度を振り返って

2013 年度、荒川の本校は、三河島の旧真土小学校から旧小台橋小学校の3階に移転しました。北校舎の裏に回って、非常階段で直接3階に上がるというスリリングな情景に、4月入居前は安全面での不安がたくさんありました。11月セールス・フォース社員のみなさんが雑草や張り巡らされた木々の根っこを掘り起し、整地してチューリップをはじめさまざまなお花を植えてくださいました。また合わせていただいた助成金で錆びついた非常階段、雨が降る度に水たまりに足を濡らしていた歩道も生まれ変わりました。春にはたくさんのお花が咲きそろう、すっかりしゃれた明るい歩道となっています。

2013 年度は中国とネパールの子が多くなりました。またタイ・ミャンマー・インド・オーストラリア・コンゴ・マレーシア・ブラジル・ボリビア・日本と例年と同じく多国籍の子どもたちが来ました。荒川と新宿両校で、55名が高校受験し、54名が進学しました。1名は滞日期間が短く日本語が不十分だったので、今年度継続して勉強することになりました。高校進学者数は年々増え続けています。

外国で義務教育を終えた外国籍の子どもたちの何人が日本で教育を受けているかについては未だ公式な統計がありません。その一方で日本の高校進学率は98%、さらに公立高校の授業料無償化は後退したとはいえ、年収900万円以下の家庭で無償となっています。学びたくても学べる学校がない学齢超過の子どもたちは、放置された子どもたちだと言えるでしょう。

その中で今年度は3年間続いた文科省抛出国際移住機関(IOM)「定住外国人の子どもの就学支援事業」が終了します。この支援事業は学齢超過の子どもたちが対象となる唯一の公的支援です。これにより学齢超過生徒は全国さまざまな地域で支援が可能になりました。また、「定住外国人の子どもの就学支援事業」全体での学齢超過生徒の進路調査で、2年間250名中、2012年度は93人(83%)、2013年度は121人(88%)が進路につながり、2012年度は84名(75%)、2013年度は118名(85%)が高校進学を果たしています。日本の学校に行けない子どもたちが、来日して早い段階で日本語と教科を学び、進路についての情報のサポートを受けることで、大きな成果を上げています。

上記「支援事業」の成果発表として、2014年4月29日4団体の共催で開催した「外国につながる子どもたちの『教育を受ける権利』を考えるフォーラム」では、定員を大きく超える130名の方(スタッフを除く)が参加下さいました。どの子どもにも教育の権利を保障すべきという思いの結集だったのだと思います。ただ、自治体が把握できていない子どもたちは、教育についての情報が得にくく、学習の場を見つけること自体に保護者と子ども自身多くの心労を伴っています。そして、都道府県レベルでいえば、そうした子どもたちをボランティアのみで支えているところがまだまだたくさんあります。それゆえ「支援事業」が終了する今年度、今一度「学齢超過」の子どもたちの居場所と学習の場の大切さの再認識が必要ですし、場の保障の後退は、これまでの積み重ねのベクトルが完全に逆に向かってしまうことだということも多くの方々に理解していただく必要があるでしょう。

最後に、「たぶんかフリースクール」の卒業生も374名になりました。高校生・専門学校生・大学生・社会人と日本に定着した者も多いですが、不安定な仕事で、転職を繰り返す子どももいます。特に在留資格が「家族滞在」の子どもたちは、仕事をする場合の制限が多く経済的に自立できません。高校卒業後もそうした在留資格のままでも悩む子どもも多いようです。多文化でも学校卒業後の進路について、具体的な相談体制を作る必要に迫られています。(多文化共生センター東京 代表理事 王 慧椏)

2013 年度事業報告

1. 外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業

■たぶんかフリースクール

日本の中学校に入らず、学ぶ場や居場所のない子どもたち（学齢超過生と中学卒業者）や、来日期間が浅く日本語の初期指導を必要とする子どもたちに対し、毎日通学し日本語や教科学習ができる学びの場と居場所を提供すること、最終的に高校進学につなげることを目的とし実施した。

また、不就学や不登校の子どもたちを公立学校に、学齢超過の子どもたちを高校進学につなげるための「虹の架け橋事業（定住外国人の子どもの就学支援事業）」（※以下「虹の架け橋教室」）を受託し、一部授業を行った。

◆本校・新宿校

受験者数：55名（本校30名 新宿校25名）

高校進学者数：54名（継続1名）

講師数：本校：担任3人 講師15人（日本語・教科等）

新宿校：担任2人 講師13人

内容：子どもたちのための日本語指導と教科指導

高校進学のためのサポート

授業時数：週20時間 荒川校 1日5時間で週4日

新宿校 1日4時間で週5日



「たぶんかフリースクール本校」発表風景

	授業時間及びクラス開校期間
本校（火～金）	10:00～15:50（通年）
新宿校(月～金)	9:00～13:00（通年）
	11:10～15:10（9月～翌3月）

◆昼クラス（午前・午後）

学齢超過の子どもを主対象に、日本語の読む、書く、聞く、話す、読解力・思考力などの力を伸ばすこと、また、高校入試を視野に入れた日本語、教科学習（英語・数学など）や作文・面接指導などの高校入試サポートを行った。8月の夏季集中講座は、本校、新宿校の各校で実施した。新宿校では、「たぶんかフリースクール」に所属する生徒以外で昼間の公立中学に通う中学3年生も参加した。

■ハートフル日本語適応指導事業

通室による日本語初期指導 9:00-12:00 週4日・2ヶ月

荒川区「ハートフル日本語適応指導（通室による初期日本語指導）」対象生徒たちが日本語を学んだ。

初期日本語修了後の補充指導 17:30~19:30の2時間 週3日・3ヶ月

荒川区「ハートフル日本語適応指導（補充学習指導）」対象生徒たち（小学5年生～中学3年生）が日本語・教科を学んだ。

■「虹の架け橋事業（定住外国人の子どもの就学支援事業）」

（文部科学省の拠出を受けた国際移住機関（IOM）から受託）

2012年度より学齢超過の子どもたちも積算対象となり、学齢超過の子どもたちは週20時間のうち、12時間を「虹の架け橋事業」で行い、8時間を自主事業で行った。また、義務教育段階の不登校・不就学の子どもたちは週20時間、「虹の架け橋事業」で行い、3ヶ月を目途に在籍校につなげた。

義務教育段階の不就学・不登校、学齢超過の子どもたちが日本語や教科（英語・数学）、高校入試のサポートを受け、小・中学校に19名、高校に52名が進学、または編入した。その他、架け橋事業対象外の生徒2名が高校に進学した。

■部会（教科会・進路部会・教科書編纂部会・勉強会）

講師間の情報の共有化、教育内容の充実に向けて4部会を開催した。

- ・教科会（日本語・数学・英語）では、生徒の学習状況や指導法、クラス編成等について話し合った。
- ・進路部会では、高校受験に必要な情報を入れた進路冊子、面接冊子を編集作成した。
- ・教科書編纂部会では、新しい日本語教科書を編集作成した。
- ・勉強会では主に新しい日本語教科書を使い授業研究の勉強会を実施した。

■キャリア教育

「たぶんかフリースクール」では、企業のご支援を受けて、生徒が将来の夢を考え、次の進路につなげる「キャリア教育」を実施している。

◆ギャップ財団

2008年よりギャップ財団からご支援を受け「キャリア教育プログラム」を実施している。このプログラムにより、今年度は本校担任3人、新宿校は2人を採用することができ、以下のキャリアイベントを行うとともに、生徒や保護者との面談（10月二者面談・12月三者面談・その他必要に応じ随時）、進路に関する作文指導のほか、高校見学や説明会への生徒の引率、日々の生徒対応、受験指導などきめ細かいサポートを行うことが出来た。

12月13日、ギャップジャパンと東京ボランティア・市民活動センターが共同で企画運営したキャリア支援プログラム「デニムデザインアワード」の発表会が開催された。

「ホリデー」というテーマをもとにギャップジャパンより商品デザインの発注を受けるという企画で、生徒達は自由な発想を生かし、約1ヶ月をかけてデニムをデザインした。発表会では、Gap、バナナ・リパブリック、



オールドネイビーの3つのブランドチームに分かれ発表した。また、多くのギャップジャパンの社員のみなさんが、審査員やギャラリーとして参加し、生徒たちの創意溢れる作品やプレゼンテーションに対して、声援や大きな拍手が送られた。(生徒参加者卒業生も含め 25 名)

◆セールスフォース・ドットコム ファンデーション

3月7日に、セールスフォース・ドットコム設立15周年の記念イベントの一環でセールスフォース・ドットコム東京オフィスを訪問した。営業やエンジニアなどの部署の仕事について社員ボランティアから話を伺った。その後の社員ボランティアとのランチ交流会では、宇陀前代表取締役社長や中国にルーツを持つ社員から生徒への応援メッセージをいただいた。(生徒参加者 38 名)

◆グラクソ・スミスクライン株式会社

11月15日にグラクソ・スミスクライン株式会社の5名の社員ボランティアが「たぶんかフリースクール」本校に来校しキャリア授業を行った。社員ボランティアにサンドウィッチを作ってもらい、ランチ交流会を行った。また英語上級クラスの生徒が社員ボランティアの前で自分の夢について英語の作文を発表した。その後全クラス合同で2名の社員の方から「16歳の時の夢と今」というテーマのお話を伺い、子どもたちからも積極的に社員の方に質問があがり交流がはかられた。(生徒参加者 31 名)

■教育相談

主に電話およびセンターでの面接による相談で、来校での相談件数は本校 70 件、新宿 47 件、合計 117 件の教育相談に対応した。相談内容は高校進学及び日本語・教科指導についての相談が多い。

また、荒川区国際交流協会が実施する「リレー専門家相談会」に教育に関する専門家相談員を1回派遣した。

■たぶんか子ども基金

2009年度より、継続的にUBSグループからご寄付をいただき、経済的な理由から授業料を負担することのできない家庭の子ども達の授業料を支援している。さらに、2012年度より広く一般からも寄付を募っており、今年度は一般寄付者からのご寄付50万円の目標に対し558,384円が頂くことができた。

■調査

2013年度は、2014年4月発行の報告書を作成した。2014年4月29日に開催するフォーラムのために、「虹の架け橋事業」を受託している団体の紹介、その支援を受けた学齢超過の子ども達の進路に関する調査の特集を組んだ。それに加えてこれまでの2011年度進路ガイダンスでのアンケート調査の報告、学齢超過の日本国籍受験生に焦点を当てた調査等で報告書を作成した。

■日本語を母語としない親子のための多言語高校進学ガイダンス

武蔵野市国際交流協会、ピナット、OCNET、IWC、八王子国際協会、CCS、多文化共生教育研究会、多文化共生センター東京、CTIC、青少年自立援助センター、一般社団法人レガートおおたの11団体による実行委員会で多言語による高校進学ガイダンスを開催した。

◆開催日・場所：

6月23日（荒川）、6月30日（大田）
7月7日（武蔵野）、10月6日（品川）
10月20日（八王子）、10月27日（荒川）

（うち荒川の2回の事務局を当センターが担当）

6月23日には59名、10月27日には52名、6回あわせて319名の参加があった。（2012年度は6回合計で358名）ガイダンスでは、日本語を母語としない中学生や学齢超過の子どもとその保護者に対して、学校制度や高校進学についての具体的な情報を提供すると同時に、ボランティアやNPOによる学習支援等につなげ、ガイダンス後のフォローも行った。

また、実行委員会で「ボランティア・市民活動支援総合基金」の助成を受け、新たにネパール語とミャンマー語のガイドブックを作成した。2014年1月19日には東京実行委員会が主催で高校進学ガイダンス主催者交流会を開催し、各地からたくさんの参加者が来場した。全体会では当センターから、今課題となっている家族滞在の子ども達について報告し、交流会の分科会で高校に進学した子どものアンケート調査の報告を行った。

その他、新宿区未来創造財団が単独で2回のガイダンスを実施し、うち1回の運営を当センターが受託した。



■子どもプロジェクト

子どもプロジェクト（ボランティアによる日本語と教科の学習支援と居場所づくり）

週に1回、ボランティアにより、日本語や教科の学習支援を基本的に個別対応で行った。受験期には、作文指導や面接練習なども集中的に実施した。また、企業や大学からのボランティアの受け入れ先としても機能した。

◆日時：毎週土曜日 15:30～17:30

◆参加人数：ボランティア 10～20名/回
子ども 10～30名/回



面接練習の様子

■アクティビティ

フリースクール講師・土曜ボランティア、企業の協力で、校外学習やスポーツなどの行事を行った。

1. 7月6日 鎌倉・江の島遠足

セールスフォース・ドットコムのご協力で鎌倉・江の島遠足を行った。本校・新宿校の生徒・講師・社員ボランティア67名でチームをつくり、大仏や鎌倉の海岸などをまわった。



2. 8月17日 卓球大会

高校生ボランティアの企画で、「たぶんかフリースクール」生、子どもプロジェクト・親子日本語クラスの学習者、ボランティア約30名で卓球大会を行った。

3. 8月24日 サマーバーベキュー

UBSグループのファミリーイベント「サマーバーベキュー」にご招待いただき、夢の島公園で「たぶんかフリースクール」生、ハートフルの生徒、ボランティア総勢75名ほどが参加し、UBS社員・家族とバーベキューを楽しんだ。

4. 12月20日 新宿校クリスマス会

秋学期の最終日に、新宿校の生徒・講師約30名が参加し、新宿校でクリスマスパーティーをおこなった。はじめてビンゴを経験した子もいて、たいへん盛りあがった。

5. 12月21日 本校クリスマス会

「たぶんかフリースクール」生や子どもプロジェクトの学習者を中心に、卒業生や、卒業生の友だち、ボランティア、ご支援企業の華為技術日本株式会社の社員等総勢100名近い参加者で、クイズやカラオケなどを行い盛大な会となった。

6. 3月14日 新宿校修了パーティー

新宿校の生徒・講師約40人が参加し、パーティーを行った。みんなの前でひとりずつ思いを話し、歓談を楽しんだ。



7. 3月15日 卒業を祝う会

荒川区男女平等推進センター・アクト21で、「たぶんかフリースクール」生、講師、スタッフ、ボランティア、ご支援企業の社員60名が参加し、子どもたちの門出を祝った。



評価と課題

①たぶんかフリースクール（昼クラス）

4月は例年のように少人数授業から始まったが、8月の夏季集中講座以降、生徒数は増加した。東京都の生徒が主であるが、今年度は、受験機会が1回で目つ5教科入試の埼玉県、前後期とも5教科入試の千葉県在住生徒の増加がみられた。この2県の高校受験のハードルは高く「たぶんかフリースクール」の都外受験生は、東京都への引っ越し、あるいはアルバイト先がある東京都の昼夜間定時制高校受験を選択する生徒もいた。日本の公立中学校で学んでいない学齢超過の子どもたちは、中学校で得られるさまざまな入試情報がないことや3教科の学習で手一杯で5教科の社会、理科にまで時間を割けない状況があり、公立中学校で学習していないことのハンディは大きい。また、東京都入試では、平成28年度から一般入試が5教科になることにともない、毎年理系を目指す生徒が多く受験してきた板橋有徳高校が5教科受験校にかわった。3教科受験校の減少により、自分にあった高校を選べない状況が生じている。厳しい状況の中で54名の生徒を高校につなげることができた。学びの場と居場所という目的では、ほとんどの生徒が3月末の卒業を迎えることができた。中途退学、休学の生徒は数人おり、家庭の経済状況、家族関係の複雑さなどが大きい。高校受験については、担任を始め先生方の学習面、精神面でのきめ細かいフォローがあり、成功している。ただほとんどの生徒の来日期間が1年未満であり、日本語指導の課題は大きい。今年度も、引き続き「虹の架け橋教室」受託により、週20時間の授業を展開することができた。会話授業や、数学や英語の教科授業を早めに開始する等、厳しい受験状況への対策を考え対応してきた。1年から半年という短期間の中でさまざまなレベルの生徒に対応した授業展開をしていくことが求められており、計画や工夫、講師間の連携がますます大切になっている。

また、高校入学後の卒業生からの相談も多い。「古典の授業がむずかしい。書類の書き方がわからない。日本人の友だちができない。」など希望をもって入った高校での悩みもある。高校卒業以降の生徒数も増えており、進学や就労についての相談も多い。高校につなげることがたぶんかフリースクールの大きな目的であるが、高校入学後の生徒への具体的なフォローと卒業生の動向について把握することは、今後も課題である。

②ハートフル日本語適応指導事業

外国から来日して荒川区内の中学校に編入した中学生は午前中3時間、週4日、2か月間の「通室による初期日本語指導」が受けられる。また、荒川区内の小学5年生から中学3年生までの児童・生徒は「補充日本語指導」を5時30分から2時間、週3日、3か月間学ぶことができる。中学生は希望をすれば併せて5か月間にわたる初期の日本語を学べる。この制度により、2013年度は中国、韓国、ネパール、コロンビア等から9名の中学生が「通室による初期日本語指導」を、6名の小・中学生が「補充日本語指導」を受けられた。ハートフル適応指導を希望する生徒や児童は日本の学校に編入してくる時期が一定ではなく、また、来日しても日本語が全くできない生徒たちが大部分を占めている。そのため、友だちもできず、日本語の学校生活になかなか馴染めず、さまざまな悩みを抱えながら、落ち着いた活気のある日常生活ができるまでの数か月間は戸惑いの生活を余儀なくされている。今期は学校側の協力を得て、適応指導下においても逐一、学校の先生方、保護者との情報交換も積極的に得られ、適応指導の生徒たちをサポートすることができた。生徒たちもこの数か月間は殊に親身な目配りと心配りが欠かせなかった。

今期は学校側の協力を得て、適応指導開始前には学校と保護者を交えての面談を実施したので、その後の適応指導に生かすことができた。また、2月～3月の学年末にはそれぞれの学校に赴き、その後、日本語は未熟ながら、学校生活を楽しみ活躍している様子を聞くことができた。

「ハートフル日本語適応指導事業」は荒川区教育委員会と小・中学校の先生方、そして保護者の連携により、4年目が終了した。2013年度は、多文化共生センター東京（荒川）の移転に伴い、安全面を考慮し、ハートフル対象の小中学生が通いやすい場所ということで、本事業は、荒川区教育委員会の配慮により、三河島の荒川区教育センターで開講となった。過去3年に渡り、「たぶんかフリースクール」と同じ旧真土小学校でフリースクール生とも交流しながら実施してきた。しかし、今年度は、教育センターでハートフル事業が開講されたため、かつてのように、フリースクールで頑張っている仲間たちとの学習面、精神面での交流が日常的に消えてしまったことは大きな損失となっている。今後、子どもたちの精神的育成の支援についても、教育委員会との更なる連携が不可欠である。

③「虹の架け橋事業（定住外国人の子どもの就学支援事業）」（文部科学省の抛出を受けた国際移住機関（IOM）から受託）

「虹の架け橋事業」に学齢超過生が積算対象に加わり、2年目となった。今年度も昨年度と同様、「虹の架け橋事業」と自主事業合わせて、週20時間の授業を行うことができた。昨年度から授業時間数が増え、文型読解、作文・面接に加え、早い時期から会話の授業を行う等、高校進学に向け、より多面的に学ぶことができ、結果として昨年度よりも多くの子どもたちが高校に進学することができた。

また、義務教育段階の不就学・不登校の生徒についても年間を通して区や学校からの相談が絶えない。また編入後の日本語のサポート、保護者との連絡、三者面談の際の通訳等、様々な要望があがっているが、どこまでの役割を本教室が担うのかが不明確であり、ボランティアで対応している部分が多い。学齢期の子どもの関しては子どもたちがスムーズに学校に編入し、安心して学校生活が送れるよう、学校、教育委員会との更なる連携が必要である。

④教育相談・入学相談

相談件数は昨年度並みであるが、新宿校での相談件数が増え、フリースクール新宿校の生徒数も大幅に増加した。東京、埼玉、千葉からの問い合わせは、口コミや地域ボランティア教室、国際交流協会、学校等の紹介で電話をかけてくるケースが多いが、来日前に保護者が当団体のHPを見て、問い合わせるというケースも増えてきた。相談内容の多くが学齢超過生の高校進学や日本語・教科学習の相談であるが、年々中学校編入等、学齢期の子どもの相談も増えている。特に1学期後、または3学期後に来日し、編入前に短期間ではあるが、日本語の基礎を学びたいという希望が多く、「たぶんかフリースクール」としては非受験クラスをつくる、または土曜日の学習支援教室を紹介する等、可能な限り対応した。

⑤調査

「課題解決力賞」をいただいたエクセレントNPO大賞では、子どもたちの実態調査を行い、問題を体系的に捉えようとしていることが評価された。2013年度は高校進学ガイダンス主催者交流会や、「外国につながる子どもたちの『教育を受ける権利』を考えるフォーラム」で、調査内容を報告する機会も得た。ひき続き東京都でのガイダンスアンケートを中心に外国にルーツを持つ子どもの調査を行うと

もに、より広域での実態調査ができるかが課題である。

⑥日本語を母語としない親子のための多言語高校進学ガイダンス

ガイダンスは実行委員会の団体数が増え、2013 年度も武蔵野・荒川は広域で、大田・八王子・品川は地域中心で計 6 回の実施ができた。当センター担当の 2 回にも 111 名が参加した。また、参加する生徒の国籍の多様化に対応して新たにネパール語とミャンマー語のガイドブックを作成したことで、より多くの子どもたちに情報を届けることができるようになった。2013 年度は東京実行委員会が主催で高校進学ガイダンス主催者交流会を開催した。東京実行委員会では、初めてそれぞれの支援団体の子どもたちの進路についての情報を集約し、この場で発表した。

課題としては、ガイダンス会場の確保があげられる。6 回開催のうち 2 回は固定の会場が決まっていないために、公共施設の抽選の結果に左右されるなど収容人数や広報に支障がある。恒常的に実施できる場所を確保することが急務である。

⑦子どもプロジェクト（土曜日の学習支援 15:30~17:30）

ボランティアの数、子どもの数が時にアンマッチの時もあるが、概ね一定数が参加し活動は安定している。来日間もない子どものひらがな指導から、比較的高度な受験対策まで、子どものニーズは幅広く、時には「難問」にボランティアの側が降参する場面もあるが、可能な限り、子どもたちのニーズを満たせるようボランティアの側も取り組んできた。しかし、特に理数系については、需給のバランスが取れていない現実もあり、より、幅広くボランティアを確保する必要は感じている。

やさしく、時にちょっと厳しく子どもたちに向き合うボランティアさん、たどたどしい日本語で一生懸命「自分」を語ろうとする子どもたち、教室に流れる空気は穏やかで、これも土曜日の良さなので大切にしていきたい。

しかし、「学習場所」と「居場所」、「静かな学び」と「奔放な発散」は、時に矛盾する課題でもあり、折り合いのつけ方は難しさを感じている。

2. 外国人の家族と子育て支援事業（ファミリーサポート事業）

■親子日本語クラス

小学生と親（大人）を対象に、日本語や教科の学習をボランティアが 1 対 1 で支援した。

◆日時：毎週土曜日 13:00~15:00

◆参加者：学習者 延べ 45 人、平均 10 人。ボランティア 延べ 35 人、平均 10 人。

◆子どもクラス

来日間もない子どもたちには、日本語の基礎学習を支援した。継続してクラスに通って来る子どもたちには、算数と国語を中心に、宿題を含めた教科学習を支援した。また、最後の 30 分は、全体学習で作文、工作、クイズ、季節行事の説明などを行った。さらに、子どもたちがいろいろな経験ができるよう、「お祭り（地域の尾久八幡神社）」・「魚釣り」・「ふれあい館お化け屋敷」に参加、「クリスマス会」・

「国立科学博物館見学」などを行った。

◆親（大人）クラス

一人ひとりのニーズに合わせて、子育てや生活、仕事に必要な会話の練習、また漢字かな混じり文を中心とした読み書きの学習などをボランティアが1対1で支援した。



お祭り（地域の尾久八幡神社）



クリスマス会

評価と課題

5年目となる「親子日本語クラス」では、学習者が増加し年齢が多様化した。そして昨年度から、小学生の日本語学習や教科学習の支援を中心とし、親（大人）も日本語を学び、生活面などの相談ができる教室という位置づけに変更した。今年度は保育を必要とする子どもをつれた学習者の参加があり、ボランティアやスタッフがその都度対応した。今後、同様のニーズがあった場合は、保育ボランティアの体制づくりの検討が必要である。

「親子日本語クラス」は、子どもたちが、自分と同じような境遇の仲間と一緒にいることで、安心して自分をだせる居場所となっている。特に全体学習や校外活動では、子どもたちは、活発にそして楽しく母語と日本語の両方で自分を主張している。しかし一方「親子日本語クラス」は、これから日本で暮らしていくための日本語や学校の教科学習の場でもある。受験などの明確な目標がない小学生では、日本語や学校教科の学習はある程度努力を必要とする。そのため学習者とボランティアが、楽しく自分らしく学習しているクラスとなるよう努めていきたい。

3. 人材育成事業

■講師派遣・研修受け入れ

国際交流協会、ボランティアセンター、行政、NPO、大学等などが行う研修会・講演・ワークショップに計 23 件の講師派遣などを行った。ボランティア・インターンの受け入れについては、2 大学経由で 3 名のインターンを受け入れた。また、国分寺市国際協会「外国にルーツのある児童・生徒の日本語・学習サポーター養成講座」(全 6 回)、中国帰国者支援・交流センター(首都圏センター)「小中(高)学生を持つ帰国者 2、3 世のための座談会」(全 2 回)、公益財団法人新宿未来創造財団「外国人・帰国子女のための高校進学ガイダンス」を受託した。「新宿区多文化共生街づくり会議」に委員として、「東京ボランティア・市民活動センター」に運営委員として参加した。

■多文化共生のためのボランティア講座等

ボランティア希望者を主対象とし、月 1 回ボランティア講座を実施し、毎回 8 名程度、年間で約 100 名の参加があった。

評価と課題

講師派遣は年々フリースクール事業が大きくなるにつれて、スタッフの手が回らず、件数が減ってきている。また、毎月 1 回のボランティア講座は昨年度並みの参加者がおり、講座を経て活動に参加するケースが多かった。しかし、事務所移転後は交通の便が悪くなったこともあり、なかなかボランティアが定着しないということが昨年度から課題となっている。今年度は、団体内部での勉強会をあまり開催することができなかつたため、次年度はボランティアや講師、スタッフ等を対象とした研修会等を充実させていきたい。

4. 多文化共生のための情報提供事業

活動と理念に対しての認知を高め、多くの方に賛同・支援をいただくため、ニュースレター、web、ブログ、メールマガジンなどの媒体を使用し、広報活動を行った。

■ニュースレター(みんぐる)

活動報告と多文化共生に関する記事を中心に年 4 回 500 部ずつ発行し、今年度は、ご支援企業・他の支援団体・中間支援団体などに幅広く配布した。記事の内容も団体の活動報告に加え、子どもたちの教育環境などをわかりやすく解説する記事を掲載した。

■Web サイト

Web サイトの更新はボランティア講座の告知など限定的だった。

■ブログ・ツイッター・フェイスブック

日々の活動報告をブログとフェイスブックで行っていたが、ブログを廃止し、フェイスブックに統一した。フェイスブック：イイね 670 (2014 年 3 月末現在)。一方ツイッターは、フェイスブックの記事を掲載しているのみで今後の活用方法は検討の必要がある。フォロワー数 457 (2014 年 3 月末現在)。

■メールマガジン(多文化 NEWS from Tokyo)

団体の活動内容等を配信(読者：約 700 名)

■メーリングリスト(多文化だより)

団体の活動内容等を会員向けに配信（月 1 回・読者：約 150 名）。今年度は内容をリニューアルし、写真をまじえて行事の報告をするなど会員に団体の活動をわかりやすく配信することを心がけた。

評価と課題

2012 年度、紙面リニューアルをした「みんぐる」は、配布先を広げ記事の内容も活動報告にとどまらない充実したものとなった。一方、Web サイトの更新は、ボランティア講座の告知など限定的だった。公開時から更新されていないページがあり情報が古くなっており、最新の情報に改定が必要である。さらに、日々の活動を広く伝えるため、Web サイト上での情報配信方法の検討も課題である。ただ、Web サイトの更新が出来る人材が少なく、広報ボランティアを広く募る等体制づくりから取り組んでいきたい。

5. その他の特定非営利事業

■多文化ユース・フェスタ

◆日時：2013 年 9 月 8 日（日）

◆場所：星陵会館

東京ボランティア・市民活動センター共催、UBS 特別協賛で、多文化ユース・フェスタ 2013 を開催した。多文化共生センター東京、他の支援団体、ブラジル人学校、ネパール人学校の子ども達等 9 チーム、97 名が歌、ダンス、民族舞踊を披露し、歌やダンスを通じて、多様なルーツを持つ子どもたちに自分を表現する場をつくることができた。また、前年度までは、パフォーマンスを希望する「たぶんかフリースクール」生・卒業生の参加が主であったが、今年度は、ほとんどの「たぶんかフリースクール」生がステージ参加または来場した。短期間の練習にも関わらず当日は練習以上の力を発揮し、ステージで自分を表現することで子ども達それぞれの自信につながった。



■多文化の未来を考える会

2013 年 6 月に「多文化の未来を考える会」が発足した。

◆開催回数：3 回

◆内容：多文化共生センター東京の歴史・課題の共有、プロジェクトチームの発足。

プロジェクトチーム（新規事業チーム・行政へのはたらきかけチーム・寄付チーム）ごとに活動した。

2013 年度団体、企業等からの助成/寄付/協力/受賞

(敬称略 50 音順)

■イーパーツ

- ・PC 寄付

■第2回「エクセレントNPO大賞」課題解決力賞 受賞

■ギャップ財団

- ・「たぶんかフリースクール」の「キャリア教育プログラム」への助成
- ・本校と新宿校の生徒・卒業生 25 名がギャップジャパン本社でのデニムデザインアワードに参加
- ・PC 寄付

■グラクソ・スミスクライン株式会社

- ・本校での社員ボランティアによる交流授業の開催

■セールスフォース・ドットコム

- ・本校と新宿校の生徒・講師・スタッフ 67 名が鎌倉・江ノ島の社員ボランティアとの交流遠足に参加
- ・電子辞書寄付
- ・「たぶんかフリースクール」生 通学交通費補助のための寄付
- ・多文化共生センター東京本校 環境整備工事への寄付および整備作業の社員ボランティア
- ・セールスフォース・ドットコム設立 15 周年記念イベントでのオフィスツアー・ランチ交流会・チャリティーウォーク参加
- ・一般寄付

■東京都高等学校教職員組合

- ・「日本語を母語としない親子のための進学ガイダンス」への助成

■華為技術日本株式会社社員有志

- ・「たぶんかフリースクール」生の通学交通費補助のための寄付
- ・中国語が母語の「たぶんかフリースクール」生への学習支援ボランティア

■株式会社三井住友銀行 三井住友銀行ボランティア基金

- ・「たぶんかフリースクール」への寄付

■UBS グループ

- ・「たぶんかフリースクール」に在籍する低所得家庭の子どもたちのための教育支援金への寄付
- ・英検の二次面接を受験する「たぶんかフリースクール」生への「面接教室」社員ボランティア

- ・英語で高校受験する「たぶんかフリースクール」生への「英語でのエッセイと面接教室」社員ボランティア
- ・「たぶんかフリースクール」卒業生のインターシップによる人材育成プログラムへの助成
- ・ファミリーイベント「サマーバーベキュー」への招待
- ・「多文化ユース・フェスタ」への特別協賛、運営協力
- ・一般寄付

2013 年度決算報告書

2013 年度 特定非営利活動に係る活動計算書

2013年4月1日から2014年3月31日まで

特定非営利活動法人 多文化共生センター東京

(単位：円)

科 目	金 額	
I 経常収益の部		
1 会費・入会金収入		
会費収入	958,000	958,000
2 事業収入		
(1) 外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業	32,564,296	
(2) 外国人の家族と子育て支援事業	32,460	
(3) 多文化共生に関する情報提供事業	25,685	
(4) 多文化共生に関する人材育成事業	1,272,818	
(5) その他非営利活動事業	215,450	34,110,709
3 補助金等収入		
助成金収入	2,150,289	2,150,289
4 寄付金収入	9,043,610	9,043,610
5 受取利息収入	15,955	15,955
6 基金からの取り崩し金	2,875,615	2,875,615
経常収益合計		49,154,178
II 経常費用の部		
1 事業費		
(1) 外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業	41,080,500	
(2) 外国人の家族と子育て支援事業	28,814	
(3) 多文化共生に関する情報提供事業	370,312	
(4) 多文化共生に関する人材育成事業	944,678	
(5) その他非営利活動事業	16,422	42,440,726
2 管理費		
給与手当等	3,230,656	
その他管理費	422,625	
予備費（新規事業関連費）	0	
		3,653,281
3 繰入支出		
たぶんか子ども基金へ繰入	2,221,325	2,221,325
経常費用合計		48,315,332
当期正味財産増減額		838,846
前期繰越正味財産額		14,249,140
次期繰越正味財産額		15,087,986

2013年度 特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

特定非営利活動法人多文化共生センター東京

2014年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	1,910,963
現 金	1,691,530	前 受 金	712,367
普通 預金	15,346,544	預 り 金	295,084
現金・預金 計	17,038,074	流動負債 計	2,918,414
(売上債権)		負債の部合計	2,918,414
未 収 金	665,420	正 味 財 産 の 部	
売上債権 計	665,420	通学定期基金	330,941
(その他流動資産)		【基金1】	
立 替 金	60,250	たぶんか子ども基金	974,976
仮 払 金	782,221	基金1 計	974,976
仮払消費税	717,400	【基金2】	
その他流動資産 計	1,559,871	新宿家賃基金	1,536,042
流動資産合計	19,263,365	基金2 計	1,536,042
【固定資産】		【正味財産】	
(有形固定資産)		正味 財産	15,087,986
建物附属設備	845,588	(うち当期正味財産増加額)	838,846
什器 備品	79,406	正味財産 計	15,087,986
有形固定資産 計	924,994	正味財産の部合計	17,929,945
(投資その他の資産)			
敷 金	660,000		
投資その他の資産 計	660,000		
固定資産合計	1,584,994		
資産の部合計	20,848,359	負債・正味財産の部合計	20,848,359

2013年度 特定非営利活動に係る事業会計財産目録

特定非営利活動法人多文化共生センター東京

(単位:円)

2014年 3月31日 現在

《資産の部》		
【流動資産】		
(現金・預金)		
現金	1,691,530	
普通預金	15,346,544	
現金・預金計	17,038,074	
(売上債権)		
未収金	665,420	
売上債権計	665,420	
(その他流動資産)		
立替金	60,250	
仮払金	782,221	
仮払消費税	717,400	
その他流動資産計	1,559,871	
流動資産合計		19,263,365
【固定資産】		
(有形固定資産)		
建物附属設備	845,588	
什器備品	79,406	
有形固定資産計	924,994	
(投資その他の資産)		
敷金	660,000	
投資その他の資産計	660,000	
固定資産合計		1,584,994
資産の部合計		20,848,359
《負債の部》		
【流動負債】		
未払金	1,910,963	
前受金	712,367	
預り金	295,084	
流動負債計	2,918,414	
負債の部合計		2,918,414
正味財産		17,929,945

監査報告書

特定非営利活動法人多文化共生センター東京の2013年度決算について、監査の結果、事業は適正に実施され、収支計算書は一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認めます。

2014年 5月 24日

監事 鴻森大介

2013 年度役員

(50 音順)

代表理事	王	慧	謹
専務理事	飯田	秀	夫
専務理事	風間	晃	
理事	李	炫	澈
理事	伊東	千	恵
理事	佐藤	均	
理事	柴山	智	帆
理事	鈴木	江	理子
理事	多田	佳	明
理事	田村	太	郎
理事	栢木	典	子
理事	福田	和	久
理事	松尾	沢	子
理事	若山	裕	司
監事	鴻森	大	介

2014 年度事業計画

1. 外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業

■たぶんかフリースクール

目的

日本の中学校に入れず、学ぶ場や居場所のない子どもたち（学齢超過生と中学卒業者）や、荒川区の小学校高学年及び中学生に対して、毎日通学し日本語と教科の勉強ができる学びの場と居場所を提供する。また、不就学や不登校の子どもたちを公立学校就学へつなげるための「虹の架け橋事業（定住外国人の子どもの就学支援事業）」（以下架け橋教室）文部科学省の拠出を受けた国際移住機関（IOM）より受託し、実施する（2015年2月20日まで）。最終的には高校進学につなげることを目的とし、外国にルーツを持つ子どもたちが教育を受ける権利を享受できる環境の実現をめざす。

事業内容

学齢超過、不就学、不登校の子どもたちへの日本語及び教科学習の学習を保障するとともに、居場所としての役割も果たす。多様化する子どもたちのニーズに応じて、以下の通りクラスを開講する。

◆たぶんかフリースクール本校

10:00～15:50 1日5時間・週4日

◆たぶんかフリースクール新宿校

9:00～13:00 / 11:10～15:10（9月以降開講予定）1日4時間・週5日

対象：主に学齢超過生及び母国で中学を卒業した生徒、義務教育段階の不就学や不登校の子どもたち

内容：日本語・教科の学習、受験サポート、居場所の提供

・義務教育段階の不登校・不就学生徒対象クラス：

文部科学省の拠出を受けた国際移住機関（IOM）「虹の架け橋教室」を受託し、運営する。

・学齢超過生及び母国で中学を卒業した生徒対象クラス：

週20時間のうち、12時間は「虹の架け橋事業」で運営する。

※「虹の架け橋事業」が2015年2月20日で終了となるため、それ以降は全て自主事業で運営する。

◆荒川区ハートフル日本語初期指導 荒川区「ハートフル日本語適応指導対象」

実施場所：荒川区立教育センター内教室

通室による日本語初期指導 9：00～12：00 週4日 2ヶ月間

荒川区内の中学校に通う「ハートフル日本語適応指導（通室による初期日本語指導）」対象生徒

内容：初期日本語の指導

初期日本語修了後の補充指導 17：30～20：00の間の2時間 週3日 3ヶ月

荒川区「ハートフル日本語適応指導（補充学習指導）」対象者（小学5年生～中学3年生）

内容：初期日本語終了後の日本語、または教科の指導

事業目標

小学校高学年、中学生、学齢超過、不就学、不登校の子どもたちへの日本語及び教科学習を保障するとともに、居場所を提供する。不登校・不就学の子どもたちは公立小中学校への復学をめざし、高校進学を希望する生徒は高校につなげることを目指す。

■キャリア教育プログラム

ギャップ財団からご支援を受け、たぶんかフリースクール生徒が将来の夢を考え、次の進路につながる「キャリア教育プログラム」を実施する。このプログラムにより、担任を採用し、職業体験などのキャリアイベントを行うとともに、生徒や保護者との面談（10月二者面談・12月三者面談）、進路に関する作文のほか、高校見学や説明会への生徒の引率、日々の生徒対応、受験指導などきめの細かいサポートを行う。また上記以外にも企業との協働でキャリアイベントを開催し、将来や進路について考える機会をつくる。

■アクティビティ

フリースクール講師・ボランティア、企業等のご協力を頂き、校外学習やイベントなどの行事を行う。

■教育・進学相談

当センター及び進路ガイダンス実施時に、年間100件程度の教育や進学、学習に関する相談に対応し、外国にルーツを持つ親子へのサポートを行う。

■たぶんか子ども基金

「たぶんか子ども基金」により、経済的な理由からたぶんかフリースクールに通いたくても通えない生徒へ授業料の一部を支援することで、より多くの子どもたちに学ぶ機会を提供する。UBSグループからのご寄付に加え、年間60万円を目標に広く一般からの支援を呼びかける。

■調査

2013年度と2014年度の東京都のガイダンスアンケートを中心に、外国にルーツを持つ子どもの調査を行う予定。

■子どもプロジェクト

目的

以下の2つの活動を柱とし、子どもたちへの力づけ（エンパワメント）を行っていく。

事業内容

◆ボランティアによる学習支援 土曜日：15：30～17：30

ボランティアベースでの教科と日本語の学習支援を週1回行う。基本的にはボランティア中心の運営で、マンツーマンによる指導を行う。

◆子どもたちの居場所づくり

学習以外でも、同じ状況の子ども同士が交流する居場所づくりを目指す。

事業目標

年間40人程度の子どもに対して、ボランティアによる教科支援と居場所づくりを行う。

■日本語を母語としない親子のための高校進学ガイダンス

目的

日本の教育事情に不案内である日本語を母語としない親子のために、日本の高校についての進路・進学・教育制度全般の理解を深めてもらうことをめざす。

事業内容

東京都内を広域対象・地域中心に分け、多言語による逐次通訳の体制を組み、高校進学についての説明会と教育相談を年6回実施する。当センター担当会場での通訳は英語・中国語・タガログ語・タイ語・ネパール語の5言語を予定。「多文化共生センター東京」「カトリック東京国際センター」「多文化共生教育研究会」「CCS 世界の子どもと手をつなぐ学生の会」「武蔵野市国際交流協会」「ピナット」「八王子国際協会」「IWC」「OC Net」「レガートおおた」「青少年自立援助センター」の11団体で実行委員会を構成し、うち2回の事務局を当センターが担う。

事業目標

合計300名程度の日本語を母語としない親子に対して、進路、教育制度についての情報を提供する。ガイダンス後、個別でのフォローを実行委員会の団体が行い、高校進学までのサポートを行う。

2. 外国人の家族と子育て支援事業（ファミリーサポート事業）

■親子日本語クラス

目的

外国にルーツを持つ小学生以下の子どもや保護者を対象に日本語習得や学習を支援する。日本語を中心に校外授業を実施するなど多面的に支援する。

事業内容

◆日時： 土曜日 13:00～15:00

◆対象：外国にルーツを持つ小学生と親（大人）

「たぶんかフリースクール」生徒の保護者など、小学生以上の子どもを持つ親や、子どものいない大人も含む。

◆内容：ボランティアとの1対1の学習や全体学習を通じて、日本語や教科の学習支援を行うとともに居場所づくりを目指す。また近隣地域への広報活動を積極的に行うことで、支援を必要としている子どもや大人に学習の場を提供する。また、親が仕事で忙しい子どもが多いので、様々な体験ができるようアクティビティを行う。

事業目標

外国にルーツを持つ子ども 10 人、大人 10 人程度を目標に、ボランティアによる日本語や教科の学習支援と居場所づくりを行う。

3. 多文化共生のための人材育成事業

目的

「多文化共生」及び「年少者の日本語教育」に関連する研修への講師派遣、活動に関わるボランティアやフリースクール講師を対象とした勉強会、ボランティア講座等により、多文化共生社会を担う人材育成を行う。

事業内容

◆講師派遣

国際交流協会や行政などが行う多文化共生関連の研修に対して 30 件程度の講師の派遣を行う。

◆多文化共生のためのボランティア講座

多文化共生センター東京の活動やボランティア活動に関心のある方を対象に、月 1 回程度の講座を行う。内容は基礎的な知識などを中心に行う。

◆ボランティア・講師勉強会

活動に関わるボランティアやフリースクール講師を対象に、多文化共生や指導法等に関する勉強会を行う。

4. 多文化共生に関する情報提供事業

目的

活動と理念に対しての認知を高め、より多くの方の賛同・支援を得るため、web、ブログ、ツイッター、紙ベースの広報誌等多様な広報媒体を使用し、広報活動を行う。当センターの活動と共に外国にルーツを持つ子どもたちの状況や多文化共生への関心を広める。

事業内容

■ Web サイト

団体の日々の活動や重要なお知らせをタイムリーに配信し、情報が古くなったページの改定を行うことで、広く一般に当団体の活動への共感を広げる。

■ ニュースレター(みんぐる)

当センターの活動報告を中心に、多文化共生に関するテーマの広報誌を年4回発行し、平均500部発行配布する。

■ ツイッター・フェイスブック

ツイッター、フェイスブックを活用し、当センターの活動報告を頻繁に行う。

■ メールマガジン(多文化 NEWS from Tokyo)

外国人関係ニュース、イベント、当センターの活動内容などのメルマガを定期的に配信する。

■ メーリングリスト(多文化だより)

活動内容を報告する会員向けメルマガを毎月メーリングリスト上に流す。

その他の特定非営利事業

■ 多文化ユース・フェスタ

今年度も東京ボランティア・市民活動センターとの共催、UBSとの特別協賛で、多様な文化的背景を持つ青少年が自分に自信をもち積極的に地域社会へ参加できる場をつくる。

■ 多文化の未来を考える会

■ ◆行政チーム

■ 広く学齢超過の子どもたちの存在を知っていただくための活動をする。

■ ◆寄付チーム

■ 多文化共生センター東京の活動に対する共感を広げるため、一般寄付者を増やすことを目指す。

■ ◆新規事業チーム

■ 高校中退または高校卒業後も次の進路につながない「たぶんかフリースクール」卒業生の就労や進路に関する相談体制の実現を目指す。日本で自立し手に職をつけたいと願う卒業生に対し、就労につなげる支援を行う。

2014 年度予算

2014 年度 特定非営利活動に係る活動予算書

2014年4月1日から2015年3月31日まで

特定非営利活動法人 多文化共生センター東京

(単位：円)

科 目	金 額	
I 経常収益の部		
1 会費・入金収入		
会費収入	1,000,000	1,000,000
2 事業収入		
(1) 外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業	31,898,000	
(2) 外国人の家族と子育て支援事業	25,000	
(3) 多文化共生に関する情報提供事業	20,000	
(4) 多文化共生に関する人材育成事業	1,000,000	
(5) その他非営利活動事業	200,000	33,143,000
3 補助金等収入		
助成金収入	2,050,000	2,050,000
4 寄付金収入	6,500,000	6,500,000
5 受取利息収入	2,000	2,000
6 基金からの取り崩し金	3,361,000	3,361,000
経常収益合計		46,056,000
II 経常費用の部		
1 事業費		
(1) 外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業	35,283,300	
(2) 外国人の家族と子育て支援事業	30,000	
(3) 多文化共生に関する情報提供事業	389,000	
(4) 多文化共生に関する人材育成事業	866,000	
(5) その他非営利活動事業	15,000	36,583,300
2 管理費		
給与手当等	3,692,000	
その他管理費	2,209,920	
新規事業関連費	500,000	
		6,401,920
3 繰入支出		
たぶんか子ども基金へ繰入	2,000,000	2,000,000
経常費用合計		44,985,220
当期正味財産増減額		1,070,780
前期繰越正味財産額		15,087,986
次期繰越正味財産額		16,158,766

2014 年度役員

(50 音順)

代表理事	王	慧	謹
専務理事	飯田	秀	夫
専務理事	風間	晃	
専務理事	栢木	典	子
理 事	李	炫	澈
理 事	伊東	千	恵
理 事	佐藤	均	
理 事	柴山	智	帆
理 事	鈴木	江	理子
理 事	多田	佳	明
理 事	田村	太	郎
理 事	福田	和	久
理 事	松尾	沢	子
理 事	若山	裕	司
監 事	鴻森	大	介



認定NPO法人

多文化共生センター東京

Multicultural Center TOKYO

特定非営利活動法人多文化共生センター東京

〒116-0011 東京都荒川区西尾久6-9-7旧小台橋小3階

TEL/FAX : 03-6807-7937 tokyo@tabunka.jp